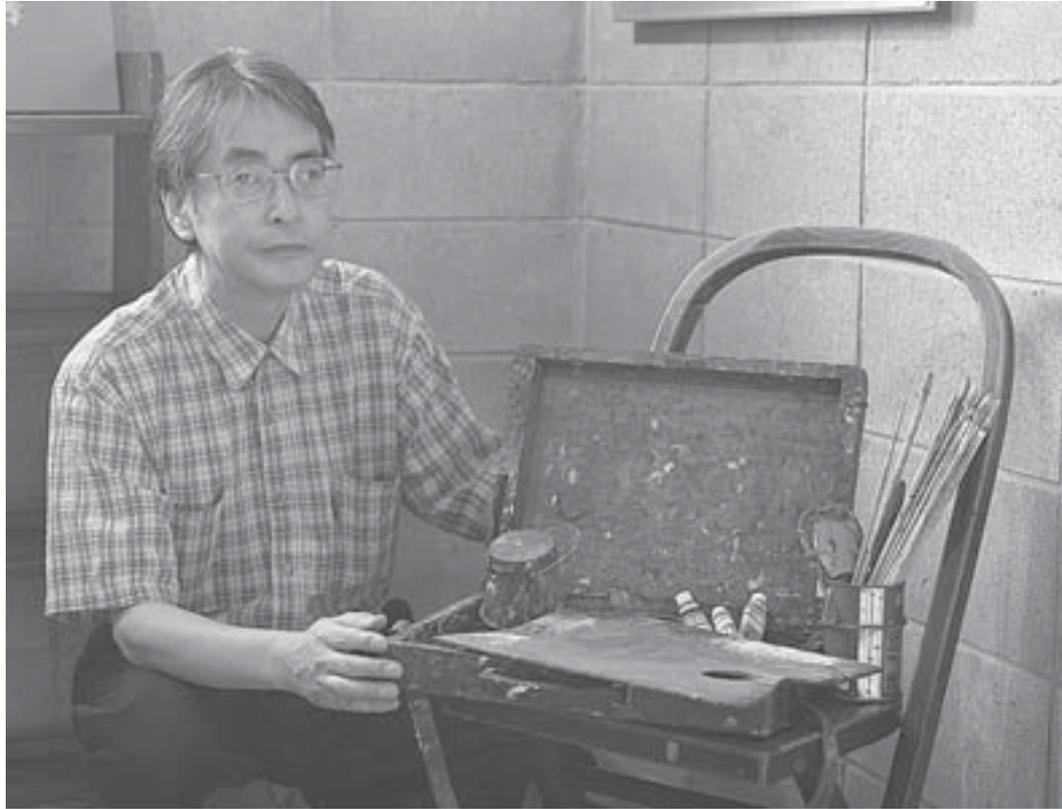




富^と樫^{がし}耕^{こう}さん

(富丘2条7丁目在住)



◀父の道具を手にする富樫耕さん

富樫正雄氏の作品「真冬の手稲山麓」▼

手稲の美しい自然を描き続けた父



▲故富樫正雄氏

富^と樫^{がし}耕^{こう}さんは、画^{とが}家^がであ^まった故^{とが}富^が樫^が正^ま雄^お氏^し（平成2年、77歳で死去）の息子^こさん^だです。

富^{とが}樫^が正^ま雄^お氏^しは、昭和34年から手稲に住み、札幌の風景、特に手稲の自然を数多く描きました。その絵からは、自然に対する作者の穏やかなまなざしが伝わり、肩の力を「ふう」と抜いて眺めることができる、安らぎと温かみを感じられます。

「絵一筋で、制作中は寡黙な父でしたが、近所の子ともと接する時だけは違っていました。手笛でカッコウの鳴き声をまねして、子どもたちを喜ばせたりするなど、楽しそうでしたよ。その時の子どもたちも、もうすっかり大人ですが、今でも外で絵を描いていた父のことを覚えていてくれるんですね。それがうれしくて」と耕さん。父がいつも描いていた風景と、その絵を眺めながら、懐かしそうに話してくれました。